

# 3月に解散、新たに確定給付 企業年金を立上げ移行へ

## 全国鐵構工業厚生年金基金

全国鐵構工業厚生年金基金(理事長 松田清明・松田鋼業社長)は、4月1日付で新たに確定給付企業年金を立上げ、移行することになった。

今年1月26日に東京・中央区の鉄鋼会館で開催した

第65回代議員会で正式に解散を決議したことを受け、1月31日厚生労働省に認可申請を行った。解散日は3月21日を予定している。

同厚生年金基金では昨年、全国16会場で厚生年金保険法改正に伴う同厚生年金基

金の対応と取り組みや確定給付企業年金の立上げと制度移行などの説明会を行い、後継制度の移行スキームを示すとともに、加入意向などの検討と手続きを進めてきた。

その結果、後継制度への

加入に3000名以上の同意を得たことから、設立を決めたもの。今後、加入事業所の従業員の老後の一助のためにキャッシュバランスによるリスクを軽減した確定給付企業年金を新たに立ち上げて、運営していくことになる。

なお、移行に関する問い合わせは同基金事務局(03・3552・2071)まで。

# 東京都が耐震改修見学会

## 「アンボンドブレース」採用物件など

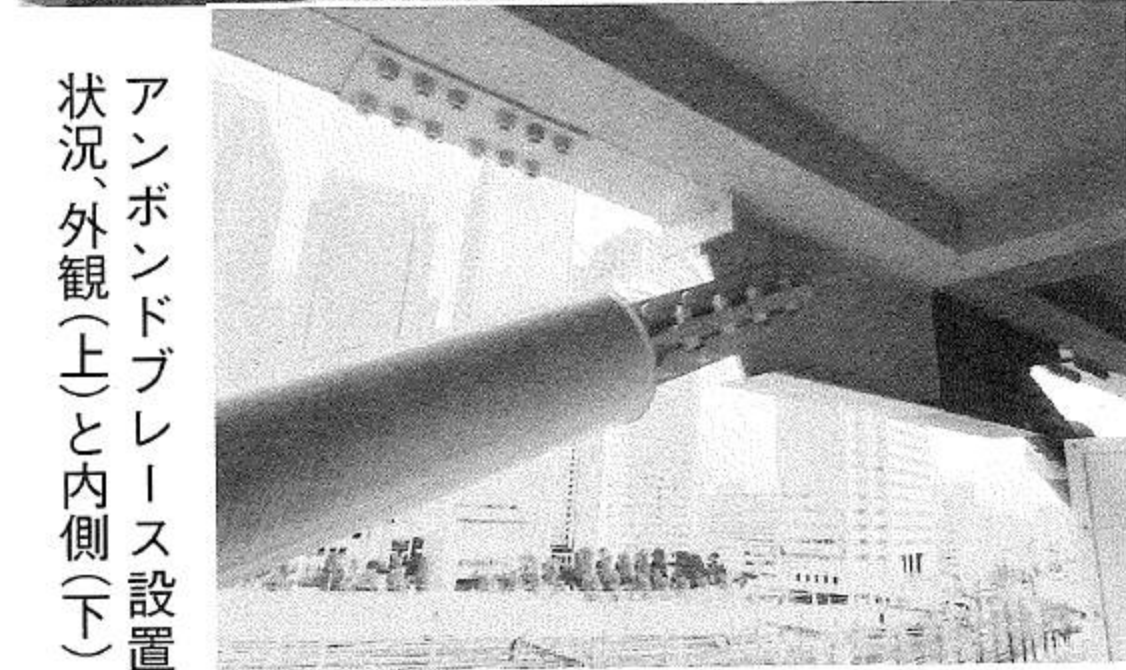
東京都は1日、「防災体験・耐震改修バスツアー」を実施し、東京臨海広域防災公園「そなエリア東京」(江東区有明)と耐震

などを実施した。そなエリア東京では、首都直下地震が発生したという設定のセットの中を、タブレット端末でクイズに答えながら避難場所へ移動する体験学習などを行った。耐震化マンションは「ハイホーム高輪」(港区高輪)を見学した。SRC10

階建て、竣工は1979年。ヤマ工業(本社・東京)による耐震化工事が2013年に施工された。新日鉄住金エンジニアリングの座屈拘束型ブレース「アンボンドブレース」を6、7階

のバルコニー外側にそれぞれ設置し、耐震補強を行った。見た目の圧迫感が少なく、外壁塗装の塗り替え工事と同時に、それに合わせた色を使用するなど意匠性が評価された。耐震化にかかった費用(概算)は4600万円のほか、耐震診断430万円など。一部、国や都の助成金を使った。担当マンション管理士やオーナー(管理組合)側からは「安全・安心で、かつ快適な住環境は重要」「資産価値が上がった」「命を守るという点で耐震改修の合意形成ができた」などの意見が聞かれた。

化施工マンションの見学会を行った。都が1月16日(2月1日に行った耐震啓発事業「2017冬耐震キャンペーン」の一環。複数のバスツアーのほか、フォーラムや各種展示会、相談会



アンボンドブレース設置状況、外観(上)と内側(下)